

第 6 回福山市学校教育環境検討委員会の議事概要

1 日 時 2014年(平成26年)6月25日(水) 10:00~12:00

2 委 員

◎委員長, ○副委員長

名 前	役職名	名 前	役職名
◎秋川陽一	福山市立大学教育学部教授	森美智代	福山市立大学教育学部准教授
○永井純子	福山平成大学福祉健康学部教授	村上勝士	福山市自治会連合会会長
小野明人	福山市民生・児童委員協議会会長	藤井春勝	福山市公民館長会会長
平田誠治	福山市PTA連合会会長	藤原理絵	福山市PTA連合会副会長
西本紀子	福山市PTA連合会会計	岡本康成	福山市子ども会育成協議会会長
荒木一夫	福山市公立小学校長会会長	川崎富男	福山市公立中学校長会会長
松本茂太郎(欠)	福山商工会議所副会頭	喜多村祐輔(欠)	福山青年会議所理事長
藤本和士	連合広島福山地域協議会事務局長		

3 概 要

- (1) 教育長挨拶
- (2) 事務局報告
第5回検討委員会の議事概要
- (3) 審議事項
 - I 教育効果を高めるための望ましい学校規模等の基本的な考え方について
 - II 社会の変化に対応する教育環境の整備に向けた具体的な方策について
 - III 児童生徒の健全育成のための教育環境の整備について
- (4) その他

【意見】

《教育効果を高めるための望ましい学校規模等の基本的な考え方について》

◆小中一貫教育校の学校規模

- ・併用型小中一貫教育校は, 学制の弾力化の先導的なものとして取組が始まっているものと言える。他市町の実践を注視しながら, 研究を重ねて検討していくことを要望することとする。
- ・諮問事項 I 『教育効果を高めるための望ましい学校規模等の基本的な考え方について (3) 小中一貫教育校の学校規模について』は, 資料2の内容を, 現時点でのまとめとする。

《社会の変化に対応する教育環境の整備に向けた具体的な方策について》

◆情報化・グローバル化に対応した教育の推進

- ・英語教育やふるさと学習の重要性とともに, 他国の人と意見を出し合ってコミュニケーションを図ることや, ディスカッションすることが大切である。そのために, 地域のイベントなどの準備

段階から、子ども達に話し合いに参加させて、大人の中で意見を言わせる機会を作るということが、グローバル化に対応した人材育成につながるのではないかと考える。

- 大人と子どもと一緒に力を合わせて何かをやる、子どもを社会の構成メンバーとしてとらえて、意見を言うことを権利として認めていくことは大切なことであり、このような地域での教育は、グローバル教育の基本と言える。
- 地域の中の言語教育の問題として、両親の母語が日本語でない子どもたちの国語教育、ことばの教育がある。その子ども達を地域や学校でどう受け入れていくのか、配慮する必要がある。
- グローバル化に対応した人材育成という中で、外国籍の子どもへの配慮と地域の取組の中での子どもの育成については、共通認識として答申に織り込んでいきたいと思う。
- デジタル教材の導入のメリットとして、個人で勉強ができ、機器を扱えるスキルを養うことができることが挙げられる。しかし、思考力や表現力、判断力といった21世紀に求められる力を養うために、デジタル教材をどう使いこなすかといった観点が大切である。
- 刻々と変化するグローバル化の時代の中、子ども達に、生きる力を育成する必要がある。知識・技能だけではすまないということが、大事な視点になってくる。

◆地域連携

- 公民館は、地域の教育力を高める、学校教育を支えるという役割を持っている。活動内容によっては専門性が必要である。公民館では、地域や学校とどう連携して、活動内容を作っていくか、関心が高まっているところである。
- 生涯学習と学校教育をどう連携するか、公民館側からも働きかけていただきたい。地域の専門性をもった人材に係る情報の共有化が必要となってくるが、個人情報の共有化になるため、ルール化することも必要となる。そのことにより、地域間が協力することができる。
- 地域行事は、できるだけ子どもを巻き込んで行おうという思いで企画している。学校に、子ども達と地域が自由に話をする場を作ってもらえれば、子ども達に意見を聞きながら、行事に取り組むことができる。
- 学校では、地域の方がゲストティーチャーとして活動してくださっているが、直接子どもと話をしながら計画をたて、役割を与えながら、実施してくださっている。学校としても、地域と子どもたちをしっかりとつないでいく機会をこれからも作っていききたいと思う。
- 地域の中の学校という視点を大切にしていきたいと思う。小中一貫教育を進める上で、中学校区単位での取組となるよう、取り組んでいきたいと考えている。

《児童生徒の健全育成のための教育環境の整備について》

◆学校給食

*栄養面や衛生面

- 成長期の中学生の食のバランスが気になる。
- 朝の部活で早く家を出るため、弁当が傷まないか心配している。
- 小学校給食では、栄養面が考えられていたが、中学校で弁当となり、仕事を持つ保護者などは、

冷凍食品に頼りがちになっており、栄養バランスの面で問題がある。

- ・ 成長期である義務教育の期間だけでも、給食はあるべきではないかと思う。
- ・ 朝食を抜いてくる子どももいるため、栄養面から、給食を実施した方が良い。

* 学校教育面

- ・ 給食を通して何を学ばせるのかという目的をもって、給食を考えていきたい。
- ・ 市内の何校かが、『弁当の日』というのを作って、自分で弁当を作り、親への感謝の気持ちを表すという機会を意図的に作るという取組も行った。こういうことは、大切にしていきたい。
- ・ 福山市の小学校は、食育が進んでいると感じた。食器の質が良い。食育を通して生き方そのものを教えていく、給食を通して小学校給食の優れたところを広めていくという方向性で進めていかれてはどうか。
- ・ 和食は、ユネスコ無形文化遺産にも登録された。給食を充実させることで、子どもたちに、日本食の良さや、食を通して感性を育てることが重要だと思う。
- ・ 給食の場を、楽しい場・コミュニケーションの場にする必要がある。大学では、ランチプログラムを作った。それは、教育の質を高めることにもつながっている。
- ・ 配膳の仕方や好き嫌いをせず残さないで食べるなど、給食指導上の課題が出てくる。

* 保護者の負担や責任

- ・ 保護者負担を考えれば、中学校給食を実施すべきと考える。
- ・ 弁当を通して親子のつながりをつくることも必要である。
- ・ 保護者によっては、弁当を作らず、昼食代を子どもに渡している場合もある。きちんと食べているかどうか不明であり、成長期に食事がとれていないことで、いらいらして、きれる子どももいる。
- ・ 食の問題は、教育・子育ての基本であり、子どもへの食は、まずは親の責任である。親ができないことを行政がするというのではないと思う。
- ・ 子どもの栄養面や衛生面を考えると給食は必要だと思うが、栄養面や衛生面からさらに1歩進めた観点から、給食を通じて、親に子どもの食習慣に関心をもたせることなど、親への働きかけを変えていくという視点が必要である。

* 留意点等

- ・ 合併の関わりもあるとはいえ、市内で、給食を実施している学校と、実施していない学校があるのは課題である。市民の感覚として、不平等に感じるのではないか。
- ・ 食中毒の問題等も踏まえ、施設整備が整っていない中で強行することなく、周辺整備をしっかりと行わないと、一度に実施することは難しいのではないか。
- ・ アレルギー対応をどのようにするかという課題がある。
- ・ 給食残さの問題が出てくる。
- ・ 給食実施の方式については、それぞれメリット・デメリットがあるため、どの方式をとるかは教

育委員会に任せる。各学校の状況や施設整備の財源等，施設面や運営面の課題等を踏まえて整理して欲しい。

【まとめ】

- 諮問事項1の『小中一貫教育校の学校規模について』は，資料2を現時点でのまとめとする。
- 諮問事項2は，次回中間まとめを行う。
- 諮問事項3については，中学校給食実施を答申に盛り込む方向で，さらに議論を深める。その他空調や洋式トイレについて協議する。
- その他に答申として協議すべき論点があれば，次回意見を出す。